

茅ヶ崎市の湿田で観察された鳥類

新 倉 三 佐 雄

Birds Observed in the Wet Rice Field of Chigasaki, Kanagawa Prefecture

Misao NIKURA

はじめに

乾燥する冬の間でも湿っていて、ところどころに水がたまっている湿田は、鳥たちにとって餌がとれ、水が飲める貴重な生息地となる。近年、水田の排水施設が整った神奈川県下には、このような湿田は少なくなってきたが、茅ヶ崎市赤羽根地区と堤・下寺尾地区に2つの湿田地帯が残っている。筆者は、1981年4月から1987年7月までの6年間、これらの湿田で鳥類の観察を行なった。観察は、冬期を中心に11月から5月までの間に主として行ない、観察日数は延べ167日であった。本文では、これらの観察にもとづき、越冬期を中心に2ヶ所の湿田で観察された鳥類について報告する。

本文をまとめるにあたり、武裕一郎・稻森誠・上野哲郎の各氏からは、貴重な観察記録を提供していただいた。神奈川県立博物館の中村一恵氏には、日頃ご指導をいただくとともに、今回本文を発表する機会を与えていただいた。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

観察地の環境

茅ヶ崎市赤羽根の湿田は、相模湾の海岸線より北側内陸方向へ約3km入ったところに位置し、面積は約20haである。北側から続いてきた海拔30~50mの丘陵の南側のすそに平垣に広がる地形のため、日当たりがよく冬でも温暖な気候である。丘陵からしみ出る水のため、北側丘陵沿いを中心に乾燥する冬の間でも湿っている。湿田の南側に国道のバイパス道路が建設中であり、また湿田の埋立て畑地化も進行中である。湿田の面積は年々減少している。

茅ヶ崎市堤から下寺尾にかけて広がる湿田は、赤羽

根の湿田の北西約1.5kmのところに位置し、面積は約18haである。低い丘陵の間に東西に細長く続いており、東側の一部は、南北から丘陵がせまり谷戸地形となっている。ここでも、丘陵から湿田に水がしみ出て流れているところがあり、これらの場所は厳冬期でも凍らない。この湿田は、道路及び集落によって東側堤地区と西側下寺尾地区に分れる。西側下寺尾地区の湿田は、1985年から1986年にかけてほとんどが埋立てられた。なお、この湿田の北西約1kmのところにも、小出川をはさんで寒川町岡田から茅ヶ崎市下寺尾に広がる湿田がある。

観察された鳥類の概要

1981年4月から1987年7月までの6年間に2ヶ所の湿田で観察された鳥類は、24科61種（ほかに野外で観察された飼鳥1種）であった。このうち水鳥（コウノトリ目・ガンカモ目・ツル目・チドリ目）は25種で、陸鳥（ワシタカ目・キジ目・ハト目・アマツバメ目・ブッポウソウ目・スズメ目）が36種であった。水鳥のうち最も多くの種類が観察されたのは、チドリ目の16種で、次いでコウノトリ目6種、ガンカモ目2種、ツル目1種となっている。

チドリ目は、すべてシギ・チドリ類で主に春の渡りのときと越冬期に観察された。このうち越冬が確認されたのは、タマシギ・イカルチドリ・ムナグロ・タゲリ・タカブシギ・ヤマシギ・タシギの7種である。これらの鳥たちは、厳冬期でも丘陵からしみ出る水により凍らずに湿っている場所に依存して生息するのが観察された。ムナグロは、毎冬堤・下寺尾の湿田で少数が観察されたが、とくに1984年以降は同一個体によると思われる小群が越冬した。その行動を観察している

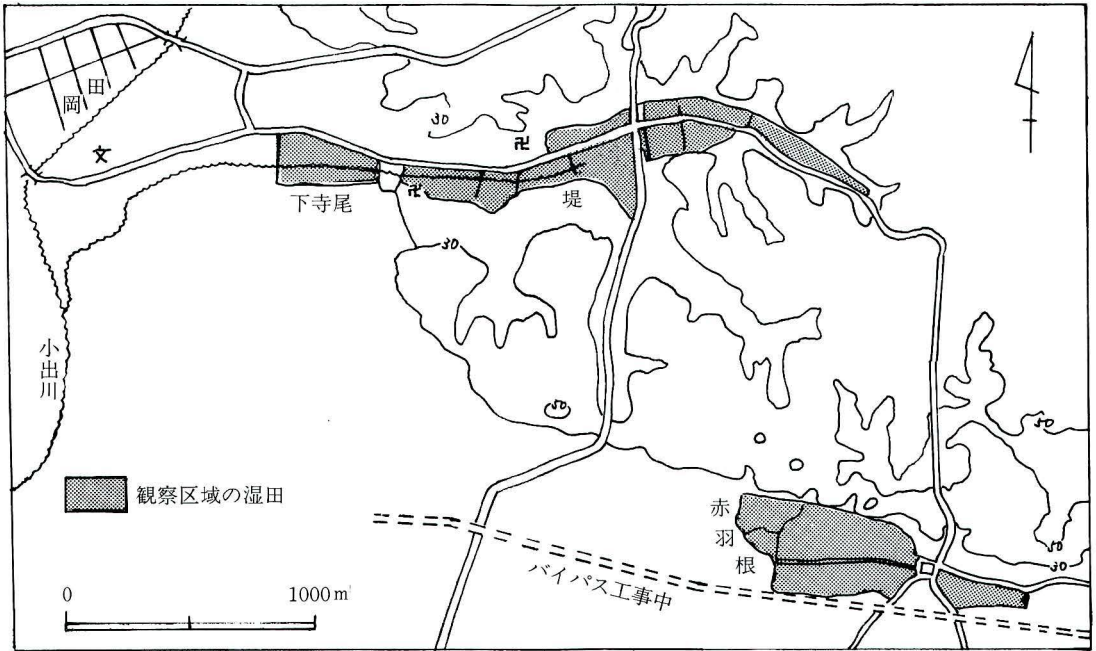


図1 観察地の湿田と周辺の概況



図2 観察地の環境（茅ヶ崎市赤羽根）

と、毎冬寒さが厳しくなるにつれ、凍らずに湿っている場所へ移動して採餌を行なった。また、タカブシギは赤羽根の湿田の湿った場所を移動しながら採餌を行なった(新倉, 1985)。これらの行動は、越冬が確認された他種の鳥たちでもよく観察された。

コウノトリ目の6種は、すべてサギ科である。このうち留鳥として周年生息するゴイサギ・コサギ以外では、アカガシラサギの越冬が確認された。アカガシラサギは、日本には、従来迷鳥としてまれに渡来するにすぎなかったが、近年記録が増えており(新倉・中村, 1987)、このような記録増加の中で当地にも越冬したと考えられる。サギ科では、この他チュウサギの冬期観察例があり、晩秋にも観察されていることから、越冬している可能性がある。ツル目の1種はクイナであり、下寺尾地区の湿田で越冬が記録されてきたが、この場所は、1985年から1986年にかけて埋立てられた。

陸鳥は、スズメ目28種、ワシタカ目3種、キジ目2種、ハト目・アマツバメ目・ブッポウソウ目各1種であった。比較的身近かな鳥たちが多く、堤地区で夏鳥のサシバが湿田に採餌に出現するのが観察された。このことは、周囲の開発が進む中で、湿田とその周辺の自然度が比較的保たれていることを意味していると考えられる。また、近年赤羽根の湿田の南側を通る国道のバイパスに、イワツバメが集団で繁殖するようになった(新倉, 1987)。

目 録

1981年4月から1987年7月までの6年間に観察された記録について、種ごとの目録としてとりまとめた。観察区域は、赤羽根と堤・下寺尾の湿田及びそれに隣接する地域である。分類配列は、日本鳥学会(1974)によった。

サギ科 ARDEIDAE

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* (LINNAEUS)

留鳥として生息し、主に夕方から夜にかけて活動する。1985年12月に、赤羽根で昼間幼鳥が採餌するのが観察された。

23. XII. '85◎ 幼鳥1羽、湿田の中をはしる幅約1.5mのコンクリート製水路のふちに立ち、中をのぞきこむようにして餌をねらう；26. XII. '85○ 幼鳥1羽、水路のふちで休む。

アカガシラサギ *Ardeola bacchus* (BONAPARTE)

日本には、従来渡りの途中にまれに渡来するにす

ぎなかったが、近年記録が増えており、1985年から1986年にかけての冬に赤羽根で1羽越冬する(新倉他, 1986)。1983年5月にも赤羽根で1羽観察された。

9. V. '83 夏羽の個体1羽、ドジョウとアメリカザリガニを採餌する。アメリカザリガニを採餌するときは、嘴でハサミをはさんでふり回してとり頭から飲みこんだ(武 裕一郎, 1986, 私信)；21. XII. '85○ 湿田の枯れた二番穂の間をゆっくり移動しながらドジョウを採餌する(写真1)；23. XII. '85◎ 休耕田のアシの間や湿田の二番穂の間を移動しながらドジョウを採餌。歩きながら尾羽を上下する。飛ぶと翼・尾・腹の白色がよく目立った；29. XII. '85○ 湿田やクロマツの枝で休んだり、湿田で採餌を行なう；5. I. '86○ 幅約1.5mのコンクリート製水路のふちでじっと水面をのぞきこんだ後、飛びこむようにしてドジョウを嘴ではさみとり、反対側のふちに飛び移る。その後ドジョウを食べる。

アマサギ *Bubulcus ibis* (LINNAEUS)

夏鳥として渡来し、少数が湿田を採餌場所として利用する。

29. IV. '81◎ 赤羽根、1羽が採餌；29. V. '81 赤羽根、3羽が採餌する；5. V. '87○ 堤、1羽夏羽の個体が採餌。

チュウサギ *Egretta intermedia* (WAGLER)

主に夏鳥として少数が渡来するが、晩秋から冬にかけても記録がある。

23. IV. '82◎ 赤羽根2羽が採餌。1羽は嘴がほとんど黒い；15. I. '84○ 下寺尾、1羽が採餌；28. X. '84 堤、冬羽の個体2羽が採餌(写真2)；22. XI. '86○ 赤羽根、嘴の先端の黒い個体1羽が採餌；5. V. '87○ 堤、3羽が採餌。

コサギ *Egretta garzetta* (LINNAEUS)

留鳥として生息し、数羽が普通に観察される。最大羽数は、赤羽根で観察された7羽である。

3. V. '81◎ 赤羽根、1羽が湿田で水を飲む；29. IV. '83◎ 赤羽根に7羽；29. XI. '83○ 赤羽根に7羽；23. XI. '83○ 赤羽根、3羽が採餌；1. XI. '84◎ 堤に4羽；13. I. '85① 下寺尾、2羽が採餌；29. IV. '85○ 赤羽根、2羽が採餌。

アオサギ *Ardea cinerea* LINNAEUS

冬に湿田上空を通過した次の1例がある。

12. I. '87◎ 堤、3羽上空を北から南へとぶ。

ガンカモ科 ANATIDAE

カルガモ *Anas poecilorhyncha* J. R. FORSTER

繁殖期に数羽が普通に観察され、1981年には繁殖が確認された。

3. V. '81◎ 赤羽根、5羽がときどき湿田にたまった水を飲みながら、あぜにはえるスズメノテッポウの上部を採餌；30. V. '81◎ 赤羽根、休耕田に巣があり親鳥が抱卵中；26. II. '84⊗ 下寺尾に4羽；29. IV. '85○ 堤、3羽があぜで休む。赤羽根、7羽が採餌；12. IV. '87◎ 堤、2羽並んであぜで休む。

コガモ *Anas crecca* LINNAEUS

冬鳥として渡来し、湿田内の水たまりや小さな流れに小群が観察される。

3. I. '82○ 下寺尾に4羽；22. III. '82○ 堤、5羽が湿田やあぜで休む；16. XII. '85○ 赤羽根、8羽が水 たまった湿田の草かげで休む。

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

トビ *Milvus migrans* (BODDAERT)

留鳥として生息し、湿田上空に普通に観察される。
5. V. '81○ 赤羽根上空に1羽；21. XII. '85○ 赤羽根、1羽が上空より、水の減った湿田の水たまりで背ビレを出しておよいでいる魚を急降下してねらうが、とれず；10. II. '86◎ 堤上空に1羽。

サシバ *Butastur indicus* (GMELIN)

夏鳥として渡来し、湿田の周辺にとまり地上の小動物を採餌する。

8. V. '86① 堤、湿田に沿ってはしる道路の電柱の頂に1羽とまる。下の湿田のようすをうかがうが、やがて南側丘陵の奥へ飛び去る；10. V. '86◎ 堤、1羽電柱の頂から湿田内の竹クイの頂に飛び移り（写真3）、地上にまいおいて採餌；16. V. '86① 堤、1羽電柱の頂と湿田とを往復して餌をさがす；30. V. '87◎ 堤、1羽電柱の頂より湿田にまいおいて餌をさがす。

ハヤブサ科 FALCONIDAE

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* LINNAEUS

冬鳥としてまれに湿田上空に飛来する。

24. XII. '83◎ 赤羽根上空に1羽；9. XII. '84○ 堤、タゲリ37羽の群れが湿田で採餌や休息しているのを、1羽が上空より度急降下しておそう、タゲリの群れはまい上がる；15. I. '85○ 下寺尾、1羽がカラスsp.に追われながら飛ぶ。

キジ科 PHASIANIDAE

コジュケイ *Bambusicola thoracica* (TEMMINCK)

留鳥として生息し、湿田周辺のやぶなどより鳴き声を聞く。1985年9月に下寺尾で幼鳥づれの群れが観察された。

29. IV. '81◎ 赤羽根、鳴き声がする；20. V. '84◎ 下寺尾に1羽；13. IX. '85◎ 下寺尾、農道を成鳥2羽幼鳥3羽の群れが横切る。

キジ *Phasianus colchicus* LINNAEUS

留鳥として湿田内の休耕田や周辺のしげみに生息し、採餌などのために湿田に現われる。

26. II. '84⊗ 下寺尾に⊕1羽；16. XII. '84◎ 堤、湿田に刈り残された稲の穂先を⊕1羽が採餌する；29. IV. '85○ 下寺尾、⊕1羽が採餌する
9. VI. '86○ 堤、休耕田のあぜに⊕早各1羽。

クイナ科 RALLIDAE

クイナ *Rallus aquaticus* LINNAEUS

冬鳥として渡来し、休耕田のアシ原などに少数が越冬する。下寺尾では、1986年まで毎冬少数が越冬したが、1986年を最後に越冬地の休耕田が埋立てられた。

11. II. '82○ 下寺尾、1羽休耕田の枯れアシの根元の間より、アメリカザリガニを引きずり出し採餌；17. III. '84◎ 下寺尾に1羽；9. XI. '84○ 下寺尾に1羽；22. IV. '85① 下寺尾、1羽湿田内の農道を横切る；19. II. '86◎ 下寺尾、休耕田のアシ原に2羽。うち1羽が、休耕田内を流れる雪の残る小さな流れで水浴び後、羽づくろいをする；20. II. '86○ 下寺尾、休耕田のアシ原に2羽。うち1羽が、大きなカエルを飲みこもうと何回も試みた後、やっと飲みこむ；22. II. '86◎ 下寺尾、休耕田のアシ原に2羽。うち1羽が、枯れアシの根元でアメリカザリガニを採餌する。少し高いキューイと聞える声で何回も鳴く（写真4）；12. I. '87◎ 堤、1羽休耕田のアシ原の丘陵側より水がしみ出ているところで採餌する。

タマシギ科 ROSTRATULIDAE

タマシギ *Rostratula benghalensis* (LINNAEUS)

留鳥として生息し、冬には越冬する群れが観察される。丘陵から湿田に水がしみ出ている場所が越冬地となっており、1984年2月18日には、赤羽根で最大数羽20の群れが観察された。

25. I. '82○ 下寺尾、⊕2・♀1羽が採餌；5.

V. '82○ 赤羽根, ①1・♀2羽が採餌; 25. XII. '83◎ 赤羽根, 朝①♀各1羽と①4羽が少し離れて休む; 21. I. '84◎ 赤羽根, ①10・♀2羽と①3・♀1羽の2群16羽がいる。前々日の降雪のため湿田に積雪があり, 丘陵側より水のしみ出る場所が雪がないため, タマシギ・タゲリ・タシギ・キジバト・ムクドリが集まって採餌; 17. II. '84⊗ 下寺尾に①5・♀2羽; 18. II. '84○ 赤羽根, 前日の降雪により湿田一面に積雪がある。①16・♀4羽が, 雪の少ない湿田のくぼ地に一かたまりになって休む(写真5); 20. II. '84 堤坂下, ①1羽を観察する(稲森 誠, 1984); 26. II. '84⊗ 下寺尾, ①1羽が採餌する。赤羽根, ①8・♀1羽の群れが採餌する。15. IV. '84◎ 赤羽根, ①1羽が採餌; 29. IX. '84◎ 赤羽根, ①1・♀3羽が湿田で水浴び後採餌する; 13. XII. '84○ 堤, ①3・♀3羽が採餌; 12. II. '86○ 赤羽根, ①1羽が雪の少し残る湿田で休む。♀1羽が奥の湿田より現われ, 2羽奥の湿田に去る; 19. II. '86◎ 下寺尾, 前日の降雪が湿田一面に積もる。雪の中の小さな流れに①2・♀1羽が休む; 1. III. '87 堤, 1羽水田跡の湿地で採餌(西信, 1987)。

チドリ科 CHARADRIIDAE

コチドリ *Charadrius dubius* SCOPOLI

夏鳥として渡来し, 普通に観察される。4・5月の記録が多い。

29. IV. '81◎ 赤羽根, 2羽が採餌; 1. IV. '82○ 堤, 4羽が採餌; 6. IV. '85① 下寺尾, 2羽が採餌; 6. IV. '87◎ 赤羽根, 2羽がいっしょに採餌し, 鳴く。堤, 4羽が採餌。

イカルチドリ *Charadrius placidus* J. E. & G. R. Gray

毎冬, 少数が越冬する。当地では, 11月から3月頃まで観察される。

1. I. '83① 赤羽根, 4羽が採餌; 20. XII. '83 赤羽根, 8羽が採餌; 4. XII. '83① 堤, 5羽が採餌; 16. XII. '83◎ 赤羽根, 6羽採餌する。下寺尾, 3羽が採餌; 21. XII. '84① 赤羽根, 6羽が採餌; 6. I. '85○ 堤, 5羽が採餌; 13. I. '85① 下寺尾, 8羽が採餌; 18. XI. '85○ 堤, 2羽採餌する。赤羽根, 8羽が採餌; 1. II. '86① 堤, 2羽が採餌, 嘴で湿田よりミミズをくわえ出し食べる; 22. XI. '86○ 赤羽根, 8羽湿

田で休む; 3. I. '87◎ 赤羽根, 11羽が湿田で休んだり採餌。

ムナグロ *Pluvialis dominica* (MÜLLER)

4・5月の春の渡りの時期に観察されるほか, 堤・下寺尾で少数が越冬する。とくに1984年以降は, 同一個体によると思われる小群が越冬した。1984年から1985年にかけての冬は, 最初5羽が, 途中で4羽となる小群が越冬し, 翌冬も再び4羽が観察された。1986年から1987年にかけての冬は, 1羽少ない3羽の群れが越冬した。1985年の冬の観察では, この小群が寒川町岡田の湿田と行来するのが確認された。

5. V. '81 赤羽根に10羽; 23. XI. '83○ 堤, 7羽が採餌; 15. IV. '84◎ 赤羽根, 8羽が採餌; 1. XI. '84◎ 堤, 5羽が採餌; 6. I. '85○ 堤, 南側丘陵沿いの湿田で4羽が採餌; 25. I. '85① 下寺尾, 4羽が採餌; 13. XII. '85○ 堤, 4羽が採餌(写真6); 22. I. '86 堤, 南側丘陵沿いの湿田で4羽が採餌。うち, 2羽が追いかけ合う; 26. II. '86◎ 堤, 南側丘陵沿いの湿田で3羽が採餌。うち1羽が, タゲリ1羽と追いかけ合う; 5. I. '87◎ 堤, 3羽南側丘陵沿いの湿田で採餌; 12. I. '87◎ 堤, 3羽あぜで休む; 6. IV. '87◎ 堤, 3羽南側丘陵沿いの湿田で採餌。

参考記録

2. XII. '85① 寒川町岡田の湿田で4羽が採餌。やがて堤・下寺方向へ飛去る。

ケリ *Microsarcops cinereus* (BLYTH)

冬期, タゲリの群中にまれに少数が観察される。

19. I. '86○ 下寺尾, 1羽家畜のふんのまかれた湿田の埋立地で採餌。

タゲリ *Vanellus vanellus* (LINNAEUS)

冬鳥として渡来する。最も早かった渡来は, 1984年の11月1日で, 最も遅い渡去は, 1982年の4月11日であった。最大羽数は, 1982年1月10日下寺尾で観察された43羽である。

26. XII. '81 赤羽根, 2羽観察(青木裕史, 1982a); 10. I. '82○ 下寺尾, 43羽が採餌; 11. IV. '82○ 堤, 3羽北より飛来。1羽は湿田におりるが, 2羽は西へ飛去る; 25. XII. '83○ 赤羽根, 朝9羽が湿田やあぜで休む; 29. XII. '83○ 赤羽根, 朝5羽が12月25日と同じ場所で休む。夕方(16:50~17:10)同所を観察したが現われ

なかった。早朝同所に飛来して休んでいるものと思われた; 21. II. '84 堤坂下, 1羽を観察する(稲森誠, 1984); 1. XI. '84◎ 堤, 1羽が採餌; 13. XII. '84○ 堤, 30羽が採餌; 24. II. '85○ 堤に8羽がいる。うち数羽が尻上げ行動及び追いかけ合いの行動をする。鳴き声もミューという声のほか、ニワトリのコッココッコという声によく似た声を出す; 16. XII. '85○ 堤, 2羽が採餌する。うち1羽は右足が悪く、左足で飛びはねながら採餌; 19. II. '86◎ 下寺尾, 前日の降雪が湿田に積もっている。1羽が雪のない小さな流れの中で採餌中、もう1羽が飛来し追い出される。このとき尻上げ行動を行なう; 3. I. '87◎ 赤羽根, 6羽の群れ, 3羽の群れ少し離れて1羽がいる。堤, 2羽が採餌(この日、寒川町岡田に14羽おり, 合計26羽であった)。

シギ科 SCOLOPACIDAE

キョウジョシギ *Arenaria interpres* (LINNAEUS)

春の渡りの時期, まれに少数が観察される。

5. V. '81○ 赤羽根, 3羽が採餌。

ウズラシギ *Calidris acuminata* (HORSFIELD)

春の渡りの時期, 少数が観察される。

29. IV. '81◎ 赤羽根, 2羽が採餌; 3. V. '81◎ 赤羽根, 4羽が採餌。

エリマキシギ *Philomachus pugnax* (LINNAEUS)

春の渡りの時期, まれに少数が観察される。最近には記録がない。

2. V. '81◎ 赤羽根, 胸からのどこにかけて黒斑があり, 上面も冬羽に比べ茶色味が強く感じられる個体1羽。5月3日も観察される(新倉, 1981); 5. V. '82○ 赤羽根, 顔から胸にかけて夏羽の黒斑がある1羽が採餌する。

ツルシギ *Tringa erythropus* (PALLAS)

旅鳥として渡来する。早春に下寺尾で観察された次の1例がある。

14. III. '82◎ 下寺尾, 1羽が採餌する。

タカブシギ *Tringa glareola* LINNAEUS

春の渡りの時期普通に観察されるほか, 小群が越冬した。

30. XII. '81 赤羽根に10羽(青木裕史, 1982b);

25. I. '82○ 下寺尾, 7羽が採餌; 29. IV. '83

◎ 赤羽根, 24羽が採餌; 15. XI. '81 赤羽根,

9羽が採餌; 15. I. '84○ 下寺尾, 5羽が採餌;

3. II. '84 堤坂下で1羽を観察する(稲森誠,

1984)。6. I. '85○ 下寺尾, 1羽が採餌; 29.

IV. '86○ 赤羽根, 10羽が採餌。

キアシシギ *Tringa brevipes* (VIEILLLOT)

春の渡りの時期, 普通に渡来する。旅鳥の他のシギ・チドリ類に比べて春の渡来は遅く, 5月に入ってから多く観察される。

18. V. '82◎ 堤, 3羽が採餌; 20. V. '84◎

赤羽根, 7羽が採餌; 19. V. '86◎ 赤羽根, 7羽が採餌する。

ソリハシシギ *Xenus cinereus* (GÜLDENSTÄDT)

春の渡りの時期, まれに少数が渡来する。

19. V. '86◎ 赤羽根, 1羽が採餌。

チュウシャクシギ *Numenius phaeopus* (LINNAEUS)

春の渡りの時期, 普通に観察される。

20. V. '84◎ 堤, 4羽が採餌; 29. IV. '85○

赤羽根に9羽; 29. IV. '86○ 赤羽根に6羽。

ヤマシギ *Scolopax rusticola* LINNAEUS

冬鳥として渡来する。越冬期には, 夕方から夜にかけて活動することが多いが, 1986年2月に堤で昼間活動するのが観察された。

9. II. '86① 堤, 1羽が南側丘陵に沿って流れる暗い小さな沢方向より, 道路を飛んで横切り, 草たけの低い休耕田におりる。草の下に土に嘴を突きさし, 細いミミズを採餌する。嘴を突きさす前, 体を上下によくゆする; 16. II. '86○ 堤, 2月9日と同じ休耕田の南向きで日当たりのよいあぜで休む。やがて休耕田におり, 細いミミズを土の中より採餌。歩いて移動するとき体を上下によくゆする(写真8)。

タシギ *Gallinago gallinago* (LINNAEUS)

春の渡りの時期及び秋から越冬期にかけて普通に観察される。

29. IV. '83◎ 赤羽根に23羽; 9. XI. '84○ 下

寺尾, 2羽あぜで休む; 16. XII. '85○ 赤羽根,

6羽と14羽が離れた場所で採餌; 22. XI. '86○

赤羽根, 9羽が採餌したりあぜで休む; 12. I.

'87◎ 堤, 5羽が休む。上空をトビが飛ぶと身を

低くして警戒する。

ハト科 COLUMBIDAE

キジバト *Streptopelia orientalis* (LATHAM)

留鳥として湿田やその周辺に普通に観察される。

23. I. '83○ 赤羽根, 21羽が休耕田の草の上で

まとまって採餌する; 2. XII. '85① 堤, 4羽が

2羽づつに分れて採餌; 26. XII. '85○ 赤羽根,

1羽が湿田の二番穂を採餌；3. I. '87◎ 堤，5羽が採餌。

アマツバメ科 APODIDAE

ヒメアマツバメ *Apus affinis* (J. E. GRAY)

湿田の上空を通過した次の1例がある。

29. IV. '83◎ 赤羽根の上空に1羽。

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

ヤツガシラ *Upupa epops* LINNAEUS

春に赤羽根で記録された次の1例がある。

1. IV. '87◎ 赤羽根，1羽ふわふわという感じで飛び，頭から胸はうす茶色，翼は白と黒のまだら模様のはっきりしていた（武裕一郎，1987私信）；2. IV. '87◎ 赤羽根に1羽（大野哲郎，1987私信）。

ヒバリ科 ALAUDIDAE

ヒバリ *Alauda arvensis* LINNAEUS

留鳥として生息し，春湿田上空でにぎやかにさえずるのが観察される。

21. I. '84◎ 赤羽根に1羽；29. IV. '85○ 赤羽根，4羽さかんにさえずる。

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツバメ *Hirundo rustica* LINNAEUS

夏鳥にして渡来し，普通に観察される。7月から8月にかけて昼間多数が集まるのが堤で観察された。

29. IV. '81◎ 赤羽根，1羽畑よりワラをくわえて飛ぶ；6. VIII. '83○ 堤，300±羽が電線にとまり休む。成鳥と幼鳥がまじる；29. VII. '84① 堤，100±羽が電線にとまり休む。

コシアカツバメ *Hirundo daurica* LINNAEUS

夏鳥として渡来するが，当地では少ない。

29. IV. '83◎ 赤羽根に1羽。

イワツバメ *Delichon urbica* (LINNAEUS)

夏鳥として渡来し，集団で繁殖する。最近，赤羽根の南側をはしる建設中の国道のバイパスで繁殖するようになった。

27. IV. '87○ 赤羽根，工事中のコンクリート高架式のバイパス道路底面に，造巢中のものも含めて46巣が確認され，成鳥が周辺を飛びまわったり巣に出入りする（新倉，1987）。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

セキレイ *Motacilla cinerea* TUNSTALL

留鳥として生息し，湿田周辺の流れに沿って観察されることが多い。

3. I. '87◎ 堤，1羽が湿田で採餌する；5.

VII. '87① 堤，♀1羽が電線にとまりなく。

ハクセキレイ *Motacilla alba* LINNAEUS

主に冬鳥として渡来するが繁殖期にも記録があり，湿田及びその周辺で普通に観察される。

3. V. '81◎ 赤羽根，1羽が採餌；23. XI. '84○ 堤，2羽，セグロセキレイ2羽とともに耕やされた畑で採餌する；21. XII. '84◎ 堤，3羽夕方上空を北西から南東に飛ぶ；28. III. '87◎ 堤，1羽胸の黒い部分が大きい個体があぜでさかんにさえずる；30. V. '87◎ 堤，2羽が電線にとまり鳴き合ったり，湿田で採餌中いっしょに飛び上がった。もう1羽が出現すると2羽のうちの1羽が追う。

セグロセキレイ *Motacilla grandis* SHARPE

留鳥として湿田及びその周辺で観察される。ハクセキレイより出現率は低い。

13. II. '83○ 赤羽根，2羽が採餌；20. III. '84● 赤羽根，1羽が採餌；6. I. '85○ 下寺尾，2羽が採餌。

タヒバリ *Anthus spinoletta* (LINNAEUS)

冬鳥として渡来し，少数が普通に観察される。

12. II. '84◎ 下寺尾，1羽が採餌；25. I. '85① 下寺尾，1羽が採餌；12. II. '86○ 赤羽根，1羽が前日の降雪の残る湿田で採餌する。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (TEMMINCK)

留鳥として主に湿田の周辺で観察されるが，冬期は数が増す。

16. XII. '85○ 赤羽根，4羽が2羽づつ行動する；21. XII. '85○ 堤，湿田沿いの雑木林で6羽がさかんになく；22. I. '86① 赤羽根，13羽がまとまって畑でコマツナを採餌する；19. II. '86◎ 赤羽根，43羽が積雪の上に少し出ているキャベツを採餌する。

モズ科 LANIIDAE

モズ *Lanius bucephalus* TEMMINCK & SCHLEGEL

留鳥として湿田及びその周辺で普通に観察される。繁殖期にも記録がある。

10. I. '82○ 赤羽根，1羽湿田から羽をくわえ杭の先端にとまる；11. IV. '82○ 堤，♂1羽が畑のネギぼうずの頂にとまる；24. XII. '83◎ 赤羽根，湿田全体で5羽観察される；29. IV. '85○ 赤竹根，♂1羽が採餌する；13. V. '86① 下寺

尾，1羽畑の竹杭の先端にとまる。竹杭の先には，よくとまるためか白いふんがついている；

28. Ⅲ. '87◎ 堤，2羽(♂♀) 湿田わきの電線に並んでとまる。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ジョウビタキ *Phoenicurus aureus* (PALLAS)

冬鳥として渡来し，湿田及びその周辺で普通に観察される。

23. Ⅱ. '84⊗ 下寺尾，♂1羽が採餌；17. Ⅲ. '84◎ 下寺尾，♂♀各1羽が採餌；22. Ⅱ. '86◎ 下寺尾，♂1羽が休耕田の枯れアシにとまる。

アカハラ *Turdus chrysolaus* TEMMINCK

当地では冬鳥として渡来し，湿田にはほとんど出現せず，周辺の雑木林などで観察される。

23. Ⅱ. '86○ 堤，1羽が柿木畑より雑木林へ飛ぶ。

ツグミ *Turdus naumanni* TEMMINCK

冬鳥として渡来し，湿田及びその周辺で普通に観察される。年によって少し異なるが，11月に渡来し5月まで観察される。

23. Ⅺ. '83○ 赤羽根，3羽が採餌；29. Ⅳ. '85○ 赤羽根，3羽が採餌；10. Ⅰ. '86○ 堤，1羽が採餌；6. Ⅳ. '87◎ 堤，3羽がおり，そのうち2羽が追いかけ合いよく鳴く。

ウグイス *Cettia diphone* (KITTLITZ)

当地では，主として冬に休耕田のアシ原や湿田沿いのやぶで観察される。なお，周辺の丘陵では，繁殖期にさえずりをきく。

10. Ⅱ. '86◎ 堤，湿田沿いの竹やぶで1羽地鳴きする；22. Ⅱ. '86◎ 下寺尾，1羽休耕田のアシ原の下部をつたうように移動し採餌。

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* (LINNAEUS)

夏鳥として渡来し，休耕田のアシの先端などでさかんにさえずるのが観察される。

9. Ⅴ. '86○ 堤，1羽休耕田のアシ原でさえずる；14. Ⅶ. '86◎ 赤羽根，1羽夕方さえずりながら飛ぶ。

セッカ *Cisticola juncidis* (RAFINESQUE)

留鳥として少数が観察される。

29. Ⅳ. '83◎ 赤羽根に1羽；22. Ⅱ. '86◎ 下寺尾，1羽休耕田の枯れアシの茎にとまり，茎の皮の内側を採餌する。

シジュウカラ科 PARIDAE

シジュウカラ *Parus major* LINNAEUS

留鳥として生息し，休耕田のアシ原や湿田沿いの雑木林で普通に観察される。

19. Ⅱ. '86◎ 下寺尾，2羽休耕田の枯れアシの茎の皮の内側を採餌する；22. Ⅱ. '86◎ 下寺尾，休耕田の枯れアシの茎の皮の内側を採餌するもの2羽(新倉，1986)。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

ホオジロ *Emberiza cioides* BRANDT

留鳥として生息し，湿田及びその周辺で普通に観察される。

9. Ⅺ. '84○ 赤羽根，11月にしては暖かい日1羽さえずる。堤でも1羽さえずる；15. Ⅰ. '86○ 堤，2羽湿田のあぜで採餌；1. Ⅱ. '87○ 堤，6+羽が休耕田のアシ原にいる。うち1羽がぐずる。

カシラダカ *Emberiza rustica* PALLAS

冬鳥として渡来し，休耕田のアシ原や湿田で普通に観察される。

22. Ⅰ. '84◎ 赤羽根，雪の降った後の湿田に多く群れる。数が多くてカウント不可能；10. Ⅱ. '86◎ 堤，頬と頭が黒くなった個体のまじる11羽の群れ。そのうちの1羽が水浴びする；12. Ⅱ. '86○ 堤，50±羽の群れが採餌する。

アオジ *Emberiza spodocephala* PALLAS

当地では主に冬鳥として渡来し，湿田に隣接するクロマツ林などで観察される。雪の降った後に，湿田に出て採餌するのが観察された。

15. Ⅰ. '85○ 下寺尾，クロマツ林に複数羽；29. Ⅳ. '85○ 赤羽根に1羽；19. Ⅱ. '86◎ 赤羽根，雪の積もる湿田にわずかに出ている枯草の実を採餌。

アトリ科 FRINGILLIDAE

カワラヒワ *Carduelis sinica* (LINNAEUS)

留鳥として生息し，湿田及びその周辺に普通に観察される。

9. Ⅺ. '84○ 堤，2羽が採餌；23. Ⅲ. '85◎ 赤羽根，2羽が草で採餌；22. Ⅱ. '86◎ 下寺尾，2羽休耕田の枯れアシにとまる。

マヒワ *Carduelis spinus* (LINNAEUS)

冬鳥としてまれに渡来する。次の1例がある。

1. Ⅱ. '87○ 堤，17羽の群れが湿田沿いの雑木林にとまる。

シメ *Coccothraustes coccothraustes* (LINNAEUS)

冬鳥として渡来し、少数が湿地及びその周辺の雑木林で観察される。

12. II. '84◎ 下寺尾、湿地と雑木林の間の道路の水たまりで1羽が水浴びをする；20. II. '86○ 下寺尾、1羽が雪におおわれた湿地の中に残る小さな流れで水をのむ；3. I. '87◎ 堤、1羽が雑木林にいる。もう1羽が雑木林より電線に飛来し、その後あぜにおいてスズメの群れといっしょに採餌する。

ハタオドリ科 PLOCEIDAE

スズメ *Passer montanus* (LINNAEUS)

留鳥として生息し、湿地及びその周辺で最も普通に観察される。周辺での繁殖が確認された。

3. V. '81◎ 赤羽根、1羽が養鶏場よりニワトリの羽毛を運ぶ；18. V. '82◎ 堤、湿地沿いの土手の低木に巣立ちビナ1羽と、それを見守るように成鳥1羽；29. IV. '85○ 下寺尾、3羽が稲の刈り株の根元で採餌する；3. I. '87◎ 堤、8羽があぜで採餌する。ときどき電線にまい上がる。

ムクドリ科 STURNIDAE

ムクドリ *Sturnus cineraceus* TEMMINCK

留鳥として生息し、湿地やその周辺に群れて行動するのが普通に観察される。堤で、湿地に隣接するところにある建物で繁殖が確認された。本種は、非繁殖期に集団でねぐらをつくるが、下寺尾に夕方多数が集まる場所がある。ここは、一時集合場所であり、ここよりねぐらへ向かう群れが観察された。

18. V. '82◎ 堤、1羽が寺の山門上部に餌をくわえて入る。中でヒナの声がする；1. XI. '84◎ 堤、15:00~15:45の間数十羽の群れ4群が、東より西へ下寺尾方向に飛ぶ；25. I. '85○ 下寺尾、15:30~15:50の間群れが湿地の西側にある落葉高木に集合。北東方向へ飛去する；29. XII. '85○ 赤羽根、11羽が湿地に隣接する養鶏場周辺で採餌。

カラス科 CORVIDAE

オナガ *Cyanopica cyana* (PALLAS)

留鳥として生息し、湿地周辺の集落や雑木林で観察される。

23. XI. '83○ 赤羽根、集落周辺で2羽採餌；12. II. '86○ 堤、4羽が湿地上空を横切り雑木林へ飛ぶ；3. I. '87◎ 赤羽根、2羽湿地わきの

の畑の低木の実を採餌。

ハシボソガラス *Corvus corone* LINNAEUS

留鳥として生息し、湿地及びその周辺に普通に観察される。

26. XII. '85○ 赤羽根、1羽が湿地におちているゴミを採餌する；3. III. '87○ 堤、朝2羽が霜のおりた湿地で採餌；4. III. '87○ 堤、朝前日と同じ霜のおりた湿地で採餌。

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* WAGLER

留鳥として生息し、湿地及びその周辺に普通に観察される。

22. IV. '85○ 下寺尾、養鶏場のそばの落葉高木に群れてとまる；26. II. '86◎ 堤、1羽が湿地沿いの雑木林にいる。

野外で観察された飼鳥

ヘキチョウ *Lonchura maja*

東南アジア原産であるが、飼鳥が逃げて野生化したと思われる次の記録がある。

31. I. '82◎ 下寺尾、2羽が雑草の間で採餌する；5. II. '82◎ 下寺尾、1羽が雑草の間で採餌。

おわりに

湿地は、稲刈りのときにも湿っていて、農作業に重労働が伴う水田である。水稻栽培の機械化が進んだ現代においては、機械による作業もむずかしい湿地は、乾田化や埋立ての運命にあるのかもしれない。しかし、湿地や湿原が減少してしまった神奈川県下においては、湿地は、夏から秋にかけて水のはってある休耕田とともに、鳥たちにとってそれらに代わる重要な生息地となっている。

今回の観察記録は、季節的に欠落している時期があり、方法もセンサス法を用いておらず不十分なものである。しかしながら、湿地の重要性を少しでもご理解していただきたくあえて発表させていただいた。今後、季節を通したより詳細な調査が行なわれることが望まれる。

文 献

- 青木裕史, 1982a. フィールドノート [タゲリ]. 日本野鳥の会神奈川支部報, (152): 10.
青木裕史, 1982b. フィールドノート [タカブシギの越冬]. 日本野鳥の会神奈川支部報, (153): 10.

- 稲森 誠, 1984. フィールドノート [野鳥から]. 日本野鳥の会神奈川支部報, (165): 13.
- 日本鳥学会, 1974. 日本鳥類目録, 改訂第5版, 学習研究社, 東京.
- 新倉三佐雄, 1981. 鳥信 [ちょっと夏羽のエリマキシギ]. 日本野鳥の会神奈川支部報, (148): 11.
- 新倉三佐雄, 1985. 茅ヶ崎市におけるタカブシギ小群の越冬について. Strix, 4: 56-57.
- 新倉三佐雄・武 裕一郎, 1986. 茅ヶ崎市で越冬したアカガシラサギについて. Strix, 5: 69-70.
- 新倉三佐雄, 1986. フィールドノート [シジュウカラ]. 日本野鳥の会神奈川支部報, (178): 12.
- 新倉三佐雄, 1987. イワツバメの新たなコロニー. 日本野鳥の会神奈川支部報, (185): 9.
- 新倉三佐雄・中村一恵, 1987. 日本におけるアカガシラサギの分布と生息状況. Strix, 6: 50-65.
- 西 信, 1987. フィールドノート [タマシギ♀1羽]. 日本野鳥の会神奈川支部報, (178): 12.

(茅ヶ崎市出口町4-31)

- 写真1 アカガシラサギ 茅ヶ崎市赤羽根 (1985. 12. 21)
- 写真2 チュウサギ 茅ヶ崎市堤 (1984. 10. 28)
- 写真3 サシバ 茅ヶ崎市堤 (1986. 5. 10)
- 写真4 クイナ 茅ヶ崎市下寺尾 (1986. 2. 22)
- 写真5 タマシギ 茅ヶ崎市赤羽根 (1984. 2. 18)
- 写真6 ムナグロ 茅ヶ崎市堤 (1985. 11. 13)
- 写真7 タゲリ 茅ヶ崎市下寺尾 (1985. 1. 6)
- 写真8 ヤマシギ 茅ヶ崎市堤 (1986. 2. 16)
- 写真9 タヒバリ 茅ヶ崎市下寺尾 (1985. 1. 20)
- 写真10 シジュウカラ 茅ヶ崎市下寺尾 (1986. 2. 22)

